



設備投資95.9億円

25年度の 企業誘致 08年以降で最多

県は2025年度の企業誘致の状況をまとめた。設備投資額は08年度以降最多となる95.9億円で、件数は目標としている50件を達成した。50億円以上の大型投資がけん引し、物流拠点を新設した大分市などへの件数が多かった。一方、新規雇用者数は近年で最少だった24年度を90人下回る459人だった。設備投資額は24年度から約35.6億円増加した。サンリオエンターテインメント(東京都約100億円、JX金属(同)約70億円、フジボウ愛媛(愛媛県)約53億円などの大型投資がけん引。大分キヤノンマテリアル日田事業所(約14.30億円)が進出表明した07年度の後では最多となった。

新規雇用は近年で最少

業種別では▽その他製造 13件(24年度比2件増)▽輸送用機械 8件(同9件減)▽情報通信 7件(同

1件減)▽電気・電子 4件(同1件減)▽食品・飲料 4件(同2件増)▽サービス 4件(同3件増)など。

県はさらなる誘致を目指し、25年度と同様に首都圏や台湾で企業向けセミナーを開いてアピールする。企業用地の開発にも取り組む。24年度に調査し、開発候補地としていた日田市石井地区の産業用地(13・8畝)は昨年12月に受託事業者を決め、開発に着手している。

県企業立地推進課は「企業の高い投資意欲をしっかりと取り込み、地域活性化や雇用の場の確保につなげる」と話している。
(鈴木幸一郎)



写真は東九州自動車道大分インターチェンジ(IC)近くに完成した大分IC物流団地=2025年10月、大分市

地域別では食品関係の物流拠点の新設などがあつた大分市の18件が最多。自動車関連の集積が進む中津市(8件)、県と市が整備したサテライトオフィスにIT企業が進出した佐伯市(6件)などが続いた。



〔問①〕記事の内容を読み、以下の（ ）内に当てはまる数字を記事から探して書き入れてください。

- ・2025年度の大分県の企業誘致数は（ 50 ）件で、県の目標を達成した。
- ・企業の設備投資額の合計は（ 959 ）億円で、2008年度以降で最も多くなった。
- ・一方で、新規雇用者数は（ 459 ）人で、2024年度と比べて（ 90 ）人減った。

〔問②〕設備投資額が最高水準である一方で、新規雇用者数が減っているのはなぜでしょうか。記事を参考に、その理由としてふさわしいものを次の4つから2つ選んで○をつけてください。

- ア 企業の利益が減っていて、働く人に払う給料がなくなってしまったから。
- イ 少子化などで、働く人を集めるのが難しくなっているから。
- ウ 生産性を上げられるように機械の性能を強化するための投資を増やしたから。
- エ 大分県内に工場を建てるための土地が、もう一つも残っていないから。

〔問③〕大分市（18件）や中津市（8件）など一部の地域の企業誘致が多い結果となっています。あなたの住んでいる地域や、大分県全体の経済をより良くするために、どのような企業に来てほしいですか。理由をそえて、あなたの考えを書いてください。

「ITやデジタル関連の企業」に来てほしい。場所を選ばずに仕事ができるため、交通の便が限られた地域でも進出しやすいと思う。また、最先端の技術を学べる場が増えれば、地元の若い人が大分を離れずに働き続けることができ、地域の活気につながると考えるから。